

講 義 要 項

経済社会政策専攻
国際経済コース

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
国際経済論特研 (International Economics Advanced Research)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
コア科目	2	1. 2	前期	金 7	柴田 茂紀 (Shigeki SHIBATA) E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715
授業の概要	理論・政策・歴史など幅広い観点から、現在の「グローバル経済を見る眼」を養う。				
具体的な到達目標					
目標1	現代に至る国際貿易システムの変遷を理解できる。				
目標2	国際経済に関する問題点がいかに解決されてきたのか、または解決されずに残されているのか分析する。				
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	世界の景気循環 (以下、テキスト)				
3	総合商社と専門商社				
4	世界の通商関係 (GATT・WTO体制)				
5	世界の通商関係 (貿易協定)				
6	世界経済前後の日本貿易				
7	東アジアの生産ネットワーク				
8	中間のまとめとテスト				
9	国際貿易の基礎理論、その1				
10	国際貿易の基礎理論、その2				
11	国際経済統計の分析方法、その1				
12	国際経済統計の分析方法、その2				
13	国際貿易と為替レートとの相互関係				
14	受講者の事例研究報告 (その1)				
15	受講者の事例研究報告 (その2)				
アクティブラーニング					その他の授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	第1回目の授業で指示します。				
参考書	必要に応じて紹介します。				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法				割合
	平常点				60%
	レポート				40%
注意事項	・受講者の発表を中心に授業を進めます。				
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
開発経済論特研 (Development Economics Advanced Research)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
コア科目	2	1. 2	前期	木 7	木村 雄一 (Yuuichi KIMURA) E-mail ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7689
授業の概要	<p>経済的に繁栄し、政治的自由も手に入れた民主的な政治体制がある一方、政治的な利害対立（たとえば、EU内の東西、米中冷戦、中国中心部と周辺（ウイグル、チベット、モンゴル）、また紛争や大規模な殺戮（バスク独立運動、アイルランド独立運動、バルカンや中央アジアの諸民族、ミャンマー独裁と民族紛争、アフリカやラテンアメリカの非民主政治体制と宗教的過激派や反政府ゲリラ）は歴史上数多く見られるし、現代および現在においても世界のあらゆる場所で観察される。政治対立や紛争問題の根幹は、政治権力と国民の間の合意、つまり何が正当な政府であるかについての合意形成が成立するかしないか、民族間や国民の集団間での利害が一致するか対立するか、などの国家形成や政治体制形成の問題と見られる。そこで、具体的には中国の中心と辺境の関係、政治体制形成を題材に、参加者どうして議論する。</p>				
具体的な到達目標					
目標1	各箇所の論点を把握し、述べるができること。				
目標2	諸問題が起きるメカニズムを理解すること。				
目標3	原因の理解の上に立ち、政策案を考えることができること。				
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	本科目の動機付けについて				
2	熊倉 2017				
3	熊倉 2018				
4	Acemoglu and Robinson 2012 Ch. 3				
5	Acemoglu and Robinson 2012 Ch. 4				
6	熊倉 2020 第4章 国家建設期の自治区政治エリート集団（1949-56年）				
7	熊倉 2020 第5章 反右派闘争と大躍進運動の時期の自治区政治エリート集団（1957-65年）				
8	熊倉 2020 第6章 文革期の自治区政治エリート集団（1966-76年）				
9	熊倉 2020 終章 民族自決と民族団結				
10	熊倉 2020 序章 中ソの差異はどこにあるのか				
11	熊倉 2020 第1章 1920年代の共和国政治エリート集団（1920-29年）				
12	熊倉 2020 第2章 集団化と経済再建の時期の共和国政治エリート集団（1929-37年）				
13	熊倉 2020 第3章 大テロルと大祖国戦争の時期の共和国政治エリート集団（1937-45年）				
14	熊倉 2020 第4章 国家建設期の自治区政治エリート集団（1949-56年）				
15	まとめの議論、論点の整理				
アクティブラーニング	毎回のマテリアルをもとに予習して論点を把握した上で参加し、議論を行う。				その他の 授業の工夫
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	予習（マテリアルを読む）			
	事後学修	論点の整理と理解			
教科書	熊倉潤 2020『民族自決と民族団結—ソ連と中国の民族エリート—』東京大学出版会。 Acemoglu and Robinson 2012。『なぜ国家は崩壊するのか』の理論枠組みの箇所：3、4章				
参考書	熊倉潤「文化大革命期（1966-76年）における新しい少数民族エリートの登場」『問題と研究』47巻1号、2018年。 熊倉潤「新疆ウイグル自治区におけるガバナンスの行方」『問題と研究』46巻2号、2017年				
及び成績評価の方法	評価方法			割合	
	予習、参加と議論			100%	
注意事項					
備考	ウイグル問題などを扱った熊倉（2020）や論文が好著と見られるので、とりあえずそれらをマテリアルとする。一方、問題の本質的論点を把握・探求する目的のため、国家形成、紛争の問題に関する論理的な内容のものや、中国・ロシアと関係しない内容のものも参照するかもしれない。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)						専攻・コース	
証券市場論特研 I (Securities Market Advanced Research I)						経済社会政策専攻 国際経済コース	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員		
コア科目	2	1. 2	前期	火 3	金 珍奎 (Jingyu KIM) E-mail kim@oita-u.ac.jp 内線 7690		
授業の概要	本授業では、証券市場の様々な問題を取り上げ、国民経済と証券市場の関係について学習します。株式・債券市場の分析に重点を置きつつ、投資信託やデリバティブなどについても学習します。						
具体的な到達目標							
目標1	証券市場の仕組みと機能がわかるようになる。						
目標2	アジアの証券市場をはじめ、世界の証券市場の現状と課題を把握できるようになる。						
目標3	株価の形成について分析ができるようになる。						
目標4							
目標5							
目標6							
授業の内容							
1	ガイダンス						
2	株式投資の二大流派						
3	株式市場のバブルについて						
4	アメリカの株式市場①						
5	アメリカの株式市場②						
6	ファンダメンタル分析①						
7	ファンダメンタル分析②						
8	テクニカル分析①						
9	テクニカル分析②						
10	証券投資理論①						
11	証券投資理論②						
12	世界の株式市場について						
13	韓国の株式市場について						
14	中国の株式市場について						
15	総まとめ						
アクティブ ラーニング	参加学生の発表をつうじ、学習内容を確認する。また、質疑応答や議論をつうじ、意見を交換するとともに、プレゼンテーションのスキルを向上させる。					その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	テキストの発表準備をする。					
	事後学修	学習内容の復習を行う。					
教科書	バートン マルキール (著)、井手 正介 (翻訳)『ウォール街のランダム・ウォーカー』日本経済新聞社、最新版。						
参考書	1. 川北英隆『テキスト株式・債券投資』中央経済社、2006年。2. 『証券投資の思想革命』東洋経済新報社、2006年。ピーター・L. バンスタイン (著)、青山 譲、山口 勝業 (翻訳)						
成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法					割合	
	発表					50%	
	質疑応答					30%	
	レポート					20%	
注意事項	授業の参加者は、毎回指定された課題を提出する必要があります。課題については、ガイダンスのときに説明します。						
備考	レポートの課題についてもガイダンスのときに説明します。						
リンク	URL						
担当教員の実務経験の有無							
教員の実務経験							
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無							
教員以外の指導に関わる実務経験者							
実務経験を いかした教育内容							

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
国際金融論特研 I (International Finance Advanced Research I)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	前期	月 4	小笠原 悟 (Satoru OGASAWARA) E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713
授業の概要	本講義では、学部レベルの国際金融の基礎理論をベースに、国際金融の制度、歴史、現状を体系的に学び、記事や論文(日・英)を読んで国際金融にかかわる事象を自分なりに理解できるようになることがねらいです。				
具体的な到達目標					
目標1	基礎理論をベースに国際金融の現状を理解する				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	国際金融の知識 (1回～3回)				
2	現代国際金融の構図 (上川・藤田編 第6章～第9章)				
3	変貌する世界経済と国際金融 (同第10章～13章)				
4	欧州通貨統合 (同7章)				
5	2～4を4回から14回で実施する				
6	期末で学生のプレゼンテーション (学期中に各自準備し、最終回に発表)				
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
アクティブラーニング	4回以降、担当学生が報告します。最終回のプレゼンテーションに向け、テーマの選択、中間報告会を実施します。				その他の 授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	担当以外の学生も予習としてテキストを下にレジメを作成していただきます。			
	事後学修				
教科書	上川孝夫・藤田誠一・向壽一編『現代国際金融論』第4版 2012年 有斐閣ブックス				
参考書	P.R.クルーグマン、M.オブスフェルド『国際経済学-理論と政策 下 金融編』原著第8版 2011年 ピアソン 上川孝夫・矢後和彦編『国際金融史』新・国際金融テキスト2 2007年 有斐閣 授業中にも適宜指示します。				
成績評価の方法	評価方法			割合	
及び評価割合	レジメの提出			25%	
	授業での貢献			25%	
	レポート			50%	
注意事項	各自作成したレジメは授業終了後提出していただきます。				
備考	無断欠席は厳禁です 受講生のバックグラウンドや授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。新型コロナウイルス感染拡大の状況によってはオンライン授業となります。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
国際金融論特研Ⅱ (International Finance Advanced Research Ⅱ)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	後期	金 7	小笠原 悟 (Satoru OGASAWARA) E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713
授業の概要	金融のグローバル化や自由化が進む中で、金融市場の安定性が損なわれたり、一国の金融危機が他国へ伝播するなど、現代の国際金融通貨システムが抱える問題点が浮き彫りになってきている。本講義では、国際金融の上中級レベルのテキストや文献(英語の文献を含む)を読みながら、国際金融通貨システムの諸問題を理解する。				
具体的な到達目標					
目標1	近年の国際通貨システムの問題点を理解する				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	IMFの設立とブレトンウッズ体制				
3	ブレトンウッズ体制の崩壊と変動為替相場制下の国際金融情勢				
4	金融の自由化とグローバル・インバランス				
5	新しい国際金融システムの構築				
6	・ 2～5回を14回で実施します				
7	・ 基本的には上記の内容に沿って進めるが、受講生の学部課程での履修状況を踏まえ、講義形式や				
8	ディスカッション形式を組み合わせながら、フレキシブルに対応します。				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
アクティブ ラーニング	テーマに沿った課題についてレポートを執筆し、報告していただきます。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	配布資料を読んで、内容について理解しておく必要があります。			
	事後学修				
教科書	ガイダンスでテキストを指定します。また授業中資料を配布します。				
参考書	授業中に指示する。				
成績評価 及び評価 割合 の方法	評価方法			割合	
	授業中の貢献度			50%	
	レポート			50%	
注意事項	特になし。				
備考	無断欠席は厳禁です。受講生のバックグラウンドや授業の進行状況に応じて内容が変わる場合があります。新型コロナウイルス感染症拡大の状況によってはオンライン授業となります				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					専攻・コース
証券市場論特研Ⅱ (Securities Market Advanced Research Ⅱ)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1.2	後期	月6	金 珍奎 (Jingyu KIM) E-mail kim@oita-u.ac.jp 内線 7690
授業の概要	本授業は、日本と中国の株式市場を対象にし、その現状と比較分析を行う。				
具体的な到達目標					
目標1	日本と中国の株式市場の現状を把握・分析できるようになる。				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	日本株式市場の発展過程				
2	中国株式市場の歴史				
3	日本と中国の株式市場の現状				
4	日本と中国の株式市場の監督体制				
5	日本と中国の機関投資家				
6	日本と中国の株式市場改革について				
7	日本と中国の債権市場				
8	Q F I I について				
9	Q D I I について				
10	中国の投資信託				
11	日本の投資信託				
12	中国の外国人投資家				
13	日本の外国人投資				
14	日本と中国の証券会社				
15	総まとめ				
アクティブラーニング	発表と議論を積極的に行う。				その他の授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	日本証券経済研究所『図説日本の証券市場』最新版				
参考書	日本証券経済研究所『アジアの証券市場』最新版				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法				割合
	発表				50%
	質疑応答				30%
	レポート				20%
注意事項					
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の实務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					専攻・コース
国際貿易論特研 (International Trade Advanced Research)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	後期	月 3	柴田 茂紀 (Shigeki SHIBATA) E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715
授業の概要	理論・政策・歴史など幅広い観点から、現在の「グローバル経済を見る眼」を養う。				
具体的な到達目標					
目標1	現代に至る国際貿易システムの変遷を理解できる。				
目標2	国際経済に関する問題点がいかに解決されてきたのか、または解決されずに残されているのか分析する。				
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	世界の景気循環 (以下、テキスト)				
3	総合商社と専門商社				
4	世界の通商関係 (GATT・WTO体制)				
5	世界の通商関係 (貿易協定)				
6	世界経済前後の日本貿易				
7	東アジアの生産ネットワーク				
8	中間のまとめとテスト				
9	国際貿易の基礎理論、その1				
10	国際貿易の基礎理論、その2				
11	国際経済統計の分析方法、その1				
12	国際経済統計の分析方法、その2				
13	為替レートの決定メカニズム				
14	受講者の事例研究報告 (その1)				
15	受講者の事例研究報告 (その2)				
アクティブラーニング					その他の授業の工夫
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	第1回目の授業で指示します。				
参考書	必要に応じて紹介します。				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法			割合	
	平常点				60%
	レポート				40%
注意事項	・受講者の発表を中心に授業を進めます。				
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
EU 政治経済論特研 I (The Europeanization of the EU Economy Advanced Research I)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	前期	火7	デイ ステイープン (Stephen Day) E-mail srday@oita-u.ac.jp 内線 6676
授業の概要	The goal of this module is to provide an insight into the dynamics associated with the historical and contemporary development of the European Union and the processes of integration. The main focus will be upon key events and actors that have been responsible for driving political and economic integration. In addition, we will take a look at the evolution of the theoretical ideas that have accompanied this story.				
具体的な到達目標					
目標1	Develop an awareness and understanding of European Union				
目標2	Ability to comment on the process of European integration/disintegration in a critical and cogent manner				
目標3	Build the necessary confidence to engage with and analyze events				
目標4	Think theoretically and conceptually about EU politics and economics				
目標5	Recognize the contested nature that accompanies the process of EU integration				
目標6					
授業の内容					
1	Introductory overview - the story of European integration (1)				
2	Introductory overview - the story of European integration (2)				
3	The EU in 2021 - debates about integration and disintegration				
4	The EU in 2021 - debates about integration and disintegration (2)				
5	Historical dimension - calls for European integration prior to 1945				
6	Historical dimension - the Schuman Plan and the European Coal and Steel Community (ECSC)				
7	Case Study - What were the norms and values that drove the 'founding fathers' ?				
8	From the European Economic Community (EEC) to the European Union (EU) (1)				
9	From the European Economic Community (EEC) to the European Union (2)				
10	Theoretical and Conceptual Overview				
11	Federalism and functionalism				
12	Neo-functionalism and supranationalism				
13	Liberal intergovernmentalism and 'New' liberal intergovernmentalism				
14	Alternative theories of integration				
15	Is the future one of integration or disintegration?				
アクティブラーニング	There will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating and deconstructing a wide range of media reports.			その他の	授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	15 hours			
	事後学修	15 hours			
教科書	There is no set text for this class				
参考書	Journal of Common Market Studies. Additional material will be distributed during the module				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法			割合	
	Essay			70%	
	Class-based exercises			30%	
注意事項	The determination to study the European Union (EU), in English, and a willingness to participate in classroom based activities				
備考	We will make use of a plethora of source material: newspaper, academic journals, video and web-based material etc.				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の实務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
E U 政治経済論特研Ⅱ (The Europeanization of the EU Economy Advanced Research II)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	後期	火 3	デイ ステイブーン (Stephen Day) E-mail srday@oita-u.ac.jp 内線 6676
授業の概要	This module examines aspects of the institutional development of the European Union (EU) against the backdrop of Brexit and the rise of populism across the EU. In so doing, it will highlight the way in which developments at the EU level impact upon the Member States and vice-versa. It will also ask: 1) in which direction is the EU-27 heading?; 2) in which direction is the post-Brexit UK heading?				
具体的な到達目標					
目標1	Develop an awareness and understanding of the European Union and the UK				
目標2	Ability to comment on the process of European integration/disintegration in a critical and cogent manner				
目標3	Build the necessary confidence to engage with and analyze contemporary events as they happen				
目標4	Recognize the contested nature that accompanies opinions about EU integration and Brexit				
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	Introductory overview				
2	An historical and contemporary overview of the evolution of the European Union (1)				
3	An historical and contemporary overview of the evolution of the EU (2)				
4	Populism in a European context - building a conceptual understanding (1)				
5	Populism in a European context - building a conceptual understanding (2)				
6	Populism from an electoral perspective (1)				
7	Populism from an electoral perspective (2)				
8	The European Union and the UK - an historical and contemporary perspective				
9	Why Brexit? The referendum campaign				
10	Understanding the process of Brexit - the era of Prime Minister May				
11	Understanding the process of Brexit - the era of Prime Minister Johnson				
12	Thinking about the impact of Brexit - economics and politics				
13	Thinking about the impact of Brexit - territorial issues				
14	Where next for the UK?				
15	Where next for the EU-27?				
アクティブラーニング	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating a wide range of media reports.				その他の 授業の工夫
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	15 hours			
	事後学修	15 hours			
教科書	『「ブレグジット」という激震—混迷するイギリス政治』ステイブーン・デイ・カ久昌幸 共著 2021年、ミネルヴァ書房				
参考書	Journal of Common Market Studies				
成績評価の方法	評価方法			割合	
	Portfolio			70%	
	Class-based exercises			30%	
注意事項	The determination to study the European Union (EU) and Brexit via English and a willingness to participate in classroom based activities. Students are strongly encouraged to take The Europeanization of the EU Economy – Advanced Research I				
備考	Preparatory reading prior to some classes so as to facilitate discussion. We will make use of newspaper, academic journals, video and web-based material.				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の实務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
経済史特研 I (Economic History Advanced Research I)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	前期	木6	市原 宏一 (Koichi ICHIHARA) E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719
授業の概要	近代世界システム論や環境史をめぐる論議動向を概観しつつ、ヨーロッパにおける近代社会の形成過程を諸地域・諸国家の結合する世界的なシステムのレベルで把握するという、社会経済史的な考察方法を理解する。				
具体的な到達目標					
目標1	先行研究の整理と史資料の読解				
目標2	修士論文作成を可能とする力の育成				
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	ヨーロッパ工業化についての研究概観				
2	ヨーロッパ工業化についての研究概観				
3	ヨーロッパ工業化についての研究概観				
4	工業化についての国家・地域各論				
5	工業化についての国家・地域各論				
6	工業化についての国家・地域各論				
7	環境史についての研究概観				
8	環境史についての研究概観				
9	環境史についての研究概観				
10	環境史についての地域各論				
11	環境史についての地域各論				
12	環境史についての地域各論 世界システム論についての研究概観				
13	世界システム論についての研究概観				
14	世界システム論についての研究概観				
15	世界システム論についての研究概観				
アクティブラーニング					その他の 授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	外国語文献を使用するが、講義の際に説明する。				
参考書					
成績評価の方法及び評価割合	評価方法				割合
	授業における報告 最終レポート				40% 60%
注意事項					
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
経済史特研Ⅱ (Economic History Advanced Research Ⅱ)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	後期	金 4	市原 宏一 (Koichi ICHIHARA) E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719
授業の概要	近代世界システム論や環境史をめぐる論議動向を概観しつつ、ヨーロッパにおける前近代社会の形成過程を諸地域・諸国家の結合する世界的なシステムのレベルで把握するという、社会経済史的な考察方法を理解する。				
具体的な到達目標					
目標1	先行研究の整理と史資料の読解				
目標2	修士論文を作成する力の育成				
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	ヨーロッパにおける初期社会研究の概観				
2	ヨーロッパにおける初期社会研究の概観				
3	ヨーロッパにおける初期社会研究の概観				
4	初期社会についての国家・地域各論				
5	初期社会についての国家・地域各論				
6	初期社会についての国家・地域各論				
7	定住地研究についての研究概観				
8	定住地研究についての研究概観				
9	定住地研究についての研究概観				
10	定住史研究における国家・地域各論				
11	定住史研究における国家・地域各論				
12	定住史研究における国家・地域各論				
13	社会形成史についての研究概観				
14	社会形成史についての研究概観				
15	社会形成史についての研究概観				
アクティブラーニング					その他の 授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	外国語文献を使用するが、講義の際に説明				
参考書					
成績評価の方法及び評価割合	評価方法				割合
	授業における報告 最終レポート				40% 60%
注意事項					
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の实務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
西洋経済史特研 I (Economic History of western Europe Advanced Research I)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	前期	金 6	城戸 照子 (Teruko KIDO) E-mail tkido@oita-u.ac.jp 内線 7946
授業の概要	ヨーロッパの前近代=封建社会の社会経済構造を、貨幣の観点から解明する。				
具体的な到達目標					
目標1	西洋の前近代社会の歴史の知識を増やす				
目標2	ヨーロッパの貨幣の種類や造幣権について、知識を深める				
目標3	西洋前近代社会の造幣に関連する金属加工業や鉱業の在り方を知る				
目標4	貨幣を交換手段として成立する経済関係を確認する				
目標5	貨幣が権威と権力のシンボルである世界を知る				
目標6	英語のテキストを読むことに慣れる				
授業の内容					
1	前近代西洋・中世の歴史のアウトラインを知る				
2	中世西洋の商業活動の中心イタリア半島の貨幣の多様性を知る (~10世紀)				
3	中世西洋のイタリア半島の貨幣の多様性を見渡す (10~15世紀)				
4	ヨーロッパ東部の金貨の意味と種類を知る (ローマ時代)				
5	ヨーロッパ東部の金貨の意味と種類を知る (ビザンツ帝国)				
6	中世のヨーロッパとイスラームの関係を知る				
7	ヨーロッパの東側の隣人、中東イスラーム世界の金貨				
8	デナリウスと高額銀貨を考える				
9	高額銀貨の機能				
10	貨幣の形と銀のインゴットやバーの形				
11	現代社会につながる一般的な貨幣の機能を考える				
12	交換手段と市場				
13	価値尺度と取引文書				
14	価値保存の「価値」の多様性				
15	権威と権力の象徴としての「価値」				
アクティブ ラーニング	英語テキストを予習して日本語に訳す練習をする。それを土台として相互に 討論の練習をする。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間 の 目安	準備学修	英文テキストの予習			
	事後学修	英文テキストの和訳			
教科書	<i>Italy and Early Medieval Europe. Papers for Chris Wickham</i> , Oxford, University Press, 2018				
参考書	講義中に指定する。				
成 績 評 価 の 方 法 割 合	評価方法				割合
	毎回のゼミにおける報告内容と回数				50%
	他のゼミ生への質問と討論などにおける発言内容と回数				20%
	学期末レポート (課題は本人が選択)				30%
注意事項	欠席する場合は、なるべく事前にメールで連絡する。Moodleを利用してテキスト配布などをする。				
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
多文化共生社会特研 (Advanced Research on Multiculturalism)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	後期	月 7	久保田 亮 (Ryo KUBOTA) E-mail yuralria@oita-u.ac.jp 内線 7730
授業の概要	グローバル化が進展する現代世界において、わたしたちが生活する地域社会や職場・教育環境も着実に多文化化・多民族化しています。また、そうした現状のなかで「多文化共生」ということばをキーワードとする、社会問題の解決に向けた取り組みが様々なレベルで実施されています。以上の点を踏まえ、この授業では次の3点を学習する機会を提供します。①多文化化・多民族化する日本社会の現状と対応を多角的に理解すること、②「多文化共生」という日本生まれの概念について、その歴史と利用のあり方についての知識を身につけること、③ディスカッション、プレゼンテーション、論文執筆など、多文化化が進展する社会環境・職場教育環境を生き抜いていくためのコミュニケーション力を身につけること。				
具体的な到達目標					
目標1	授業で学習した概念・事例について正確かつ詳細な説明ができる。				
目標2	現代日本の地域社会や教育/職場環境の多文化化および多民族化の状況とそれが生み出す諸問題について理解する。				
目標3	多文化共生という概念について説明ができる。				
目標4	ディスカッション、プレゼンテーション、資料収集、論文執筆など、多文化的環境で特に必要とされる知識や技法を身につける。				
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	ガイダンス (授業概要、単位認定基準、スケジュールの説明)				
2	ディスカッションの技法				
3	グループディスカッション (1)				
4	プレゼン・論文執筆の技法 (1)				
5	プレゼン・論文執筆の技法 (2)				
6	多文化共生の意味とその実態 (1)				
7	多文化共生の意味とその実態 (2)				
8	グループディスカッション (2)				
9	多文化化する地域社会				
10	多文化化する職場・教育環境				
11	グループディスカッション (3)				
12	日本社会の多民族化 (1)				
13	日本社会の多民族化 (2)				
14	日本社会の多民族化 (3)				
15	グループディスカッション (4)				
アクティブラーニング	授業では複数回、授業内容に関するグループディスカッションを実施します。議論に必要な文献渉猟を事前に行うことを推奨します。			その他の授業の工夫	授業で用いる資料配布、課題の提出、連絡事項の周知などにMoodleを使用します。
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	配布資料、参考文献に対して目を通し、予習する (15h)。			
	事後学習	ノートなどを利用して、授業での学習成果についての確認作業を行うとともに、配布資料、ノート、参考文献を用いて復習する (15h)			
教科書	授業内で指示します。				
参考書	授業中に適宜紹介します。				
成績評価の方法	評価方法				割合
	ミニッツコメントの提出状況・記載内容				30%
	グループディスカッションへの積極的な参加および議論への貢献				20%
	課題の提出状況および内容評価				10%
	学期末レポート				40%
注意事項	※この授業では、受講生が積極的に発言することを強く求めます。※授業内容は、必要に応じて変更する場合があります。				
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の实務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
経済学史特研 (History of Economics Advanced Research)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	後期	火7	金子 創 (Soh KANEKO) E-mail skaneko@oita-u.ac.jp 内線 7701
授業の概要	<p>経済学は、異なる価値観を有する主体の間で生じうる相互作用の帰結を(1)「予測」し、またその帰結について(2)「評価」することを主要な興味としている。それぞれに関して、多くのバリエーションが歴史上に存在し、今なお論点は発展・拡大している。本科目では、そうした歴史的な理論上の試行錯誤を経済学方法論の観点から整理し、種々のバリエーションの相互の関連性を探ることで、経済学についての理解を深める。</p>				
具体的な到達目標					
目標1	経済学が何を明らかにしようとしてきた／しているか、を説明できるようになる。				
目標2	経済学の発展の方向性を建設的に批判できるようになる (もしそうしたいのであれば)。				
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	ガイダンス、経済学史と経済学方法論				
2	基礎的な用語について				
3	J. S. ミルの方法論的伝統				
4	演繹と帰納、それぞれの役割				
5	厳密ではない法則とは				
6	実証主義と反証主義				
7	(古典的な) 科学的説明と経済学				
8	実在論と反実在論				
9	ポパー的伝統とラカトシュ的転回				
10	フリードマンと道具主義				
11	古典的プラグマティズムと経済学				
12	サミュエルソンの操作主義				
13	市場経済へのアプローチ法				
14	モデルによる現実の理解				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	・学生に報告を課し、議論の時間を設ける。・コメントペーパーに疑問点を記入してもらおう。			その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	・報告準備 (授業内演習として割り当てる)			
	事後学修	・復習・課題提出			
教科書	・教科書は指定しない。・配布資料を用いる。				
参考書	・D. W. Hands "Reflection without Rules," Cambridge University Press, 2001. ISBN978-0521497152				
成績評価 及び評価 割合 の方法	評価方法			割合	
	授業内演習 (報告、ディスカッション)			50%	
	課題			50%	
注意事項					
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
国際経済学演習 I～IV (International Economics Seminar I～IV)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1.2	前・後		柴田 茂紀 (Shigeki SHIBATA) E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715
授業の概要	理論・政策・歴史など幅広い観点から、現在の「グローバル経済を見る眼」を養う。				
具体的な到達目標					
目標1	現代に至る国際貿易システムの変遷を理解できる。				
目標2	国際経済に関する問題点がいかに解決されてきたのか、または解決されずに残されているのか分析する。				
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	演習 I 国際経済の基礎理論を学ぶ (英語文献を使って英語で発表し、レポートを作成する)				
2	演習 II 国際経済の現実問題を学ぶ (英語文献を使って英語で発表し、レポートを作成する)				
3	演習 III 国際経済の事例分析を行う (英語文献を使って英語で発表し、レポートを作成する)				
4	演習 IV 国際経済の事例分析を深め、多面的に検証する				
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
アクティブ ラーニング					その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	第1回目の授業で指示します。				
参考書	必要に応じて紹介します。				
成績評価 及び評価 割合 の方法	評価方法			割合	
	平常点			60%	
	レポート			40%	
注意事項	・受講者の発表を中心に授業を進めます。 ・理論的な知識が不十分な場合は、個別に課題を出します。				
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
国際金融論演習 I～IV (International Finance Seminar I～IV)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1.2	前・後		小笠原 悟 (Satoru OGASAWARA) E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713
授業の概要	前半は金融、国際金融に関する専門書の輪読を中心にする。各自の修士論文執筆の準備をします。後半には各自の修士論文のテーマに沿った論文を取り上げ検討します。				
具体的な到達目標					
目標1	国際金融の諸理論を理解し、問題意識を持って論文作成に取り組むこと				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	輪読する文献は参加者の関心、研究テーマに合わせて決めます。輪読を通じて国際金融について理解を深めるとともに、論文のための調査方法や分析方法を学びます。				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
アクティブラーニング	テキストを輪読しながら現代の国際金融に関わる問題点を検討します。				その他の 授業の工夫
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	授業の前までに必ず指定テキストを読んでおくこと。			
	事後学修				
教科書	ガイダンスで指示します				
参考書	適宜、指示します				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法			割合	
	授業での報告の内容 授業への貢献度			50% 50%	
注意事項	無断欠席は厳禁です。				
備考	特になし				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
証券市場論演習 I～IV (Securities Market Seminar I～IV)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1.2	前・後		金 珍奎 (Jingyu KIM) E-mail kim@oita-u.ac.jp 内線 7690
授業の概要	受講者の研究テーマに基づき、授業を進めます。				
具体的な到達目標					
目標1	修士論文の作成に必要な力を養うことにあります。				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	修士論文のテーマに沿って進める。				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
アクティブラーニング	発表と議論を積極的に行う。				その他の 授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	受講者と相談して決めます。				
参考書	『証券投資の思想革命』 東洋経済新報社、2006年。ピーター・L. バーンスタイン (著)、青山 譲、山口 勝業 (翻訳)				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法			割合	
	発表			100%	
注意事項					
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
E U 政治経済論演習 I ~ IV (The Europeanization of the EU Economy Seminar I ~ IV)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1. 2	前・後		デイ スティーブン (Stephen Day) E-mail srday@oita-u.ac.jp 内線 6676
授業の概要	The goal of this seminar will be to analyze contemporary developments in the European Union as they happen. At the same time we will build a framework of understanding about the European project from an historical and contemporary perspective. Every two weeks, the focal point of the seminar will be an unfolding news story. We will subsequently explore the issues contained within that story as we think about the nature of the relationship between the EU and its Member States.				
具体的な到達目標					
目標1	Develop an understanding of the EU in order to discuss events in a critical and cogent manner				
目標2	Build-up a confidence to engage with and analyze events as they happen				
目標3	Display an awareness and understanding of different perspectives towards the process of European integration				
目標4	Develop an understanding of the intricacies of Brexit				
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	Turbulent relations between the Member States and the European Union				
2	Assessing the pros and cons of European integration				
3	Issues relating to the oft-cited 'existential crisis' faced by the EU in recent years				
4	The rise of populism across the EU member states				
5	The EU in a global context - thinking about the EU's 'soft-power'				
6	The EU as a model for regional integration				
7	Using theoretical ideas to help our understanding of EU integration				
8	Parliamentary elections across the EU Member States and the impact of changes in national governments				
9	European Parliamentary elections				
10	Party politics at the national and European level				
11	Relations between the key institutions of the European Union				
12	The impact of the increased electoral strength of Eurosceptic political forces				
13	The UK and Brexit				
14	The process of Brexit negotiations				
15	The impact of Brexit				
アクティブラーニング	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating a wide range of media reports.				その他の 授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	15 Hours			
	事後学修	15 Hours			
教科書	Michelle Cini and Nieves Pérez-Solórzano Borragán (Eds) European Union Politics 6th Edition, Oxford University Press, 2019 『「ブレグジット」という激震—混迷するイギリス政治』 スティーブン・デイ・力久昌幸 共著 2021年、ミネルヴァ書房 Learners will be provided with additional relevant material				
参考書	Journal of Common Market Studies				
成績及び評価の割合	評価方法				割合
	Essay				40%
	Portfolio				40%
Class-based exercises				20%	
注意事項	This seminar will be conducted in English. Learners are strongly encouraged to take the classes entitled 'The Europeanization of the EU Economy - Advanced Research I & II'				
備考	Preparatory reading prior to some classes so as to facilitate discussion. We will make use of newspaper, academic journals, video and web-based material.				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
経済史演習 I～IV (Economic History Advanced Research Seminar I～IV)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1.2	前・後		市原 宏一 (Koichi ICHIHARA) E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719
授業の概要	史資料に基づく先行研究成果の整理検討により、工業化前社会の社会経済的特徴を環バルト海世界のヒトと物の交流を題材として検証する。				
具体的な到達目標					
目標1	先行研究の整理と史資料の読解を行える				
目標2	文献史料と考古学資料の総合的な検討を行える				
目標3	修士論文作成の力を育める				
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	文献史料に基づく先行研究の整理 (1)				
3	文献史料に基づく先行研究の整理 (2)				
4	文献史料に基づく先行研究の整理 (3)				
5	文献史料に基づく先行研究の整理 (4)				
6	文献史料に基づく先行研究の整理 (5)				
7	文献史料に基づく先行研究の整理 (6)				
8	中間報告 (1)				
9	考古学資料に基づく先行研究の整理 (1)				
10	考古学資料に基づく先行研究の整理 (2)				
11	考古学資料に基づく先行研究の整理 (3)				
12	考古学資料に基づく先行研究の整理 (4)				
13	考古学資料に基づく先行研究の整理 (5)				
14	考古学資料に基づく先行研究の整理 (6)				
15	最終報告				
アクティブラーニング					その他の 授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	授業に際して説明する。				
参考書					
成績評価の方法及び評価割合	評価方法				割合
	授業での報告				40%
	最終報告				60%
注意事項					
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の实務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
西洋経済史演習Ⅰ～Ⅳ (Economic History of Western Europe Seminar)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1. 2	前・後		城戸 照子 (Teruko KIDO) E-mail tkido@oita-u.ac.jp 内線 7946
授業の概要	演習のテーマとして、中世ヨーロッパの社会経済構造を解明するために、「貨幣」に注目する。造幣権力、造幣技術、貨幣の機能、貨幣の意匠と貨幣をめぐる同時代人の心性などをテーマとして、分析にとりかかる。授業では、テーマが明解な論文を複数読み、Webサイトを利用して、貨幣の現物の画像を多く見ることで、テーマの実像に接近する。				
具体的な到達目標					
目標1	ヨーロッパでの研究動向の調べ方に慣れる				
目標2	英文論文の読み方に慣れる				
目標3	webサイトを利用した検索に慣れる				
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	貨幣の機能 1	交換手段 1			
2	貨幣の機能 2	交換手段 2			
3	貨幣の機能 3	交換手段 3			
4	交換の場所 1	中世の市場 1			
5	交換の場所 2	中世の市場 2			
6	交換の場所 3	中世の市場 3 (イスラーム)			
7	貨幣の機能 4	価値尺度 1			
8	貨幣の機能 5	価値尺度 2			
9	貨幣の機能 6	価値尺度 3			
10	度量衡と貨幣 1				
11	度量衡と貨幣 2				
12	度量衡と貨幣 3				
13	貨幣の価値保存 1				
14	貨幣の価値保存 2				
15	貨幣の価値保存 3				
アクティブ ラーニング	報告レジュメを作り、討論することで内容の理解を深める				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間 の目 安	準備学修	英語論文の読解			
	事後学修	英語論文を翻訳しキーワード理解を深める			
教科書	A Cultural History of Money in the Medieval Age, ed. by Rory Maismith, Bloomsbury, 2019				
参考書					
成績評価 及び 評価 割合 の方法	評価方法			割合	
	毎回のゼミの報告と討論。 日本語訳の論文テキストの作成。			50%	
				50%	
注意事項	Moodleでのテキスト配布やゼミ予定の連絡をするので、こまめに見ておいてほしい。				
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
開発経済学演習 I～IV (Development Economics Seminar I～IV)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1.2	前・後		木村 雄一 (Yuuichi KIMURA) E-mail ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7689
授業の概要	経済発展、貧困削減についての開発経済学の研究を実行可能にするため、これらトピックの議論内容を把握し、研究方法として計量経済学の方法についても参照する。				
具体的な到達目標					
目標1	開発経済学の分野で、自ら研究テーマを設定、実証研究を遂行すること。				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	経済発展、貧困削減についての文献を展望				
2	経済発展、貧困削減についての文献を展望				
3	経済発展、貧困削減についての文献を展望				
4	修士論文の問題設定、研究方法のための議論				
5	修士論文の問題設定、研究方法のための議論				
6	修士論文の問題設定、研究方法のための議論				
7	計量経済学、それを使った実証分析の方法				
8	計量経済学、それを使った実証分析の方法				
9	計量経済学、それを使った実証分析の方法				
10	経済発展、貧困削減などに関するサーベイ文献参照				
11	経済発展、貧困削減などに関するサーベイ文献参照				
12	経済発展、貧困削減などに関するサーベイ文献参照				
13	論文参照				
14	論文参照				
15	論文参照				
アクティブ ラーニング					その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	指定なし。				
参考書	World Development、Journal of Development Economicsなどの専門誌、その他、開発経済学、経済発展、貧困削減などの関連書籍。計量経済学についてはFumio Hayashi 2000. Econometrics. Princeton University Press.				
成績評価 及び評価 割合 の方法	評価方法				割合
	準備、参加と議論				100%
注意事項					
備考	この分野の書籍は英語のものが多く、論文はすべて英語なので、それを読めることが必要。				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の 実務経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外 の指導に 関わる実務 経験者					
実務経験を いかした教育 内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
文化人類学演習 (Cultural Anthropology seminar I～IV)					経済社会政策専攻 国際経済コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1.2	前・後		久保田 亮 (Ryo KUBOTA) E-mail yuralria@oita-u.ac.jp 内線 7730
授業の概要	文化人類学的観点から、現代社会を生きる人間の営みを理解する眼を養う。				
具体的な到達目標					
目標1	文化人類学の理論、方法論についての知識を深める。				
目標2	社会調査方法としてフィールドワークの技術を習得する。				
目標3	それぞれの現場における人間の営みを資料に基づき考察できる。				
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	文化人類学の基礎理論を学ぶ				
2	文化人類学の方法論を学ぶ				
3	学習した理論・方法論に基づき、現場における研究を行う				
4	研究に基づき成果論文を執筆する				
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
アクティブラーニング					その他の 授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	授業内で指示します。				
参考書	必要に応じて紹介します。				
成績評価の方法 及び評価割合	評価方法				割合
	期末レポート				100%
注意事項					
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の实務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					